

## ナシ「あきづき」は、早期に予備摘果すると軸折れする果実が多くなる

[要約] 満開後 20～40 日の範囲では、予備摘果時期が早いほど果実肥大は良好であるが、軸折れして落果する果実が多くなる。軸折れは、10 日間の横径増加量が最大となる満開後 100～110 日(8 月上旬頃)が最も多い。

農業総合センター園芸研究所

成果  
区分

普及(情報)

### 1. 背景・ねらい

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成されたナシ新品種「あきづき」は、9 月中旬～10 月上旬に収穫となる食味良好な赤ナシで、年次によりみつ症が多発する「豊水」や果実品質(特に肉質の硬さとザラツキ)に難のある「新高」にかえて現地への普及が進んでいる。そこで、予備摘果時期の違いが軸折れ果の発生数、果実肥大、果実品質に及ぼす影響について検討する。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) 満開後 20～40 日の範囲では、予備摘果時期が早いほど軸折れ果数が多く、軸折れによる落果率は、11.3～19.1%に達する。軸折れによる落果は、10 日間の横径増加量が最大となる満開後 100～110 日(8 月上旬頃)が最も多い(表 1、図 1～2)。
- 2) 予備摘果時期が早いほど果実肥大は良好であるが、軸折れによる落果が多く発生し、1 m<sup>2</sup>当たりの収穫果数は少ない。1 m<sup>2</sup>当たりの収量は、5.5～5.9kg あって全体的に多く、予備摘果時期による差は少ない(表 2)。
- 3) 予備摘果時期の違いにより、果実品質に差はみられない(表 2)。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) ナシ「あきづき」は、軸折れしやすいので、果軸が横～下向きのもを中心に残す。

#### 4. 具体的データ

表1 予備摘果時期の違いが軸折れ果の発生数に及ぼす影響

摘果時期 (満開後)	樹冠面積 m <sup>2</sup>	着果数(7/28現在)		軸折れ果数		
		果/樹	果/m <sup>2</sup>	果/樹	果/m <sup>2</sup>	%
22日	30.1	467	15.5	89	3.0	19.1
30日	26.0	424	16.3	68	2.6	16.0
40日	26.9	424	15.8	48	1.8	11.3

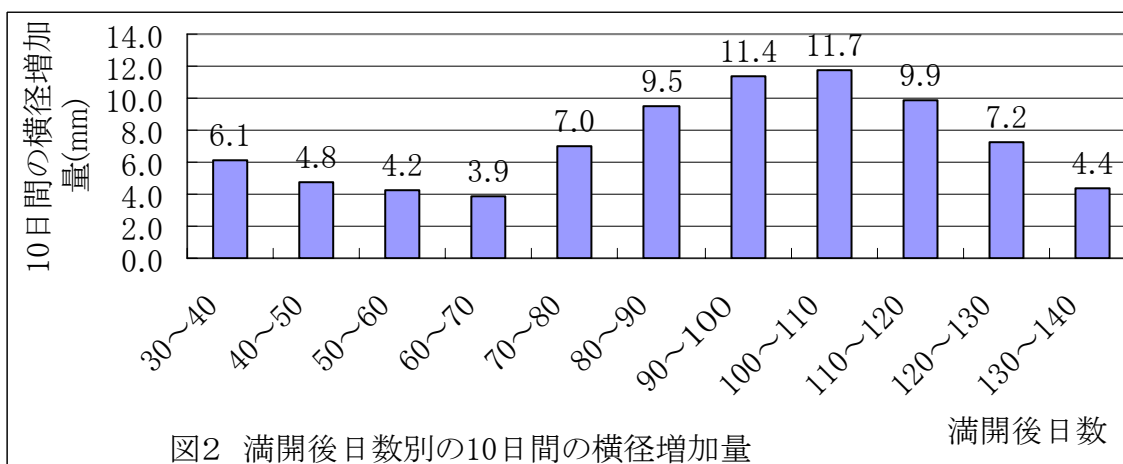
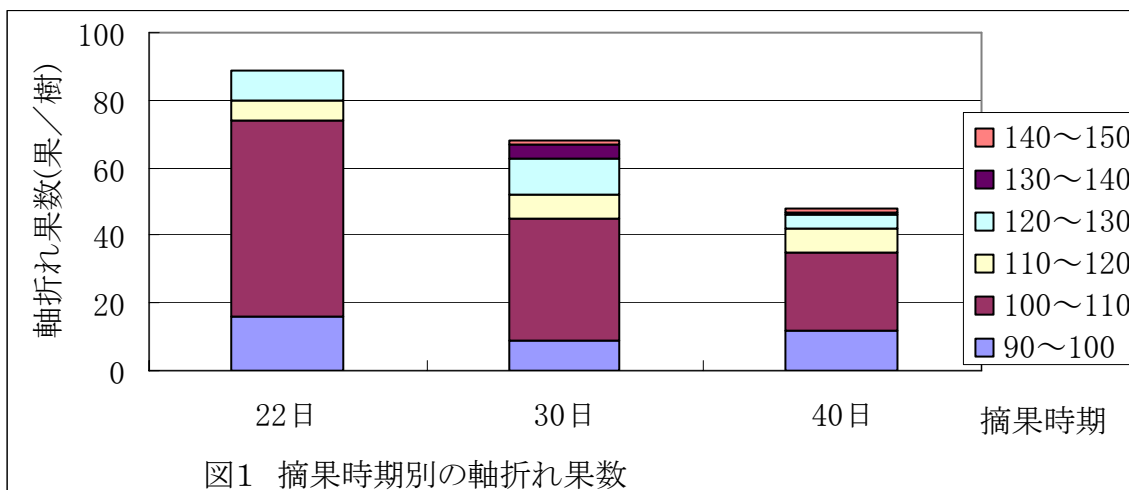
注1) 軸折れ果数は、7月28日～9月19日までの合計

注2) 満開後60日に樹冠面積1m<sup>2</sup>当たり17果に仕上げ摘果した。

表2 予備摘果時期の違いが収量、果実品質に及ぼす影響(平成18年)

摘果時期 (満開後)	樹冠面積 m <sup>2</sup>	収量		収穫個数		平均果重 g	地色	硬度 lbs	糖度 Brix%	pH
		kg/樹	kg/m <sup>2</sup>	果/樹	果/m <sup>2</sup>					
22日	30.1	169.4	5.6	378	12.6	448	4.6	3.8	12.5	4.76
30日	26.0	154.3	5.9	356	13.7	433	4.5	3.9	12.8	4.73
40日	26.9	148.1	5.5	376	14.0	394	4.6	3.9	12.9	4.67

注) 果実品質は、各区35果調査した。



#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

ナシ晩生新品種の高品質生産技術の開発・平成18年・プロジェクト研究チーム ナシグループ